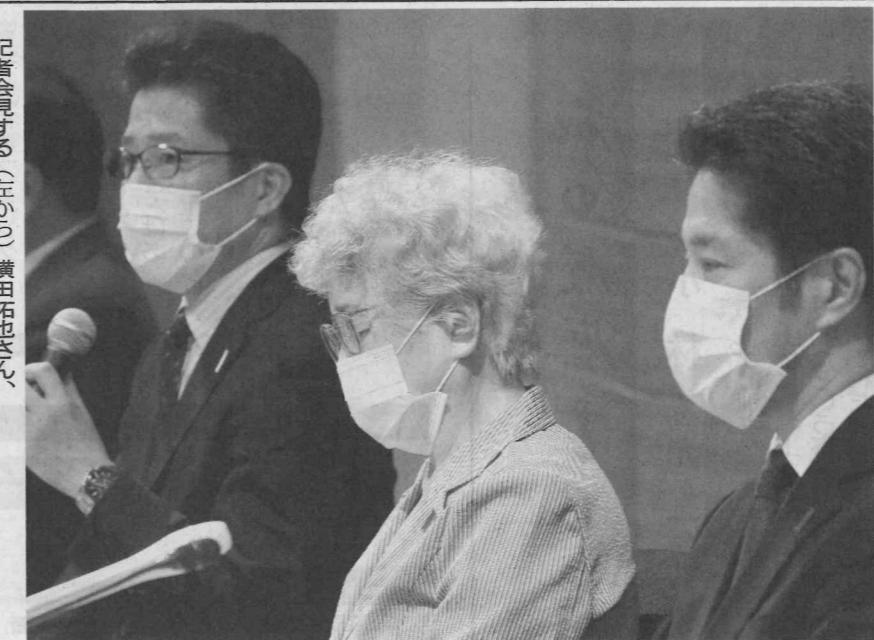


北朝鮮による拉致被害者、横田めぐみさん（失踪当時13）の母、早紀江さん（84）が9日、東京都内で記者会見した。5日に87歳で亡くなった夫の滋さんについて「一人三脚で頑張ってきた。思い残すことがないほど、全身全霊で（救出）活動に打ち込んでいた」と語った。めぐみさんとの再会がかなわなかつた滋さんの無念さを口にし、改めて拉致問題の早期解決を訴えた。



めぐみさん弟「拉致解決へ遺志継ぐ」

滋さんは2年前に体調を崩して入院し療養していた。早紀江さんは滋さんと最後に交わした言葉について「耳の近くまで顔を寄せて『お父さん、気持ちよく眠つてください。私が行くときまで忘れないで待つていてね』と声をかけると、片目を少し開けて涙を流したような気がした。それから眠るように亡くなつた」と振り返った。

会見には双子の息子で兄の拓也さん（51）と弟の哲也さん（51）も同席した。拓也さんは「はじめは何の手がかりも情報もなく、苦しい中を走り続けてきた。父は、姉を写真が載った新聞記事が

いほどかわいがつていたので、どれほど会ったかただううと思うと悔しきてしかたがない。今後、何としても解決していくたい」と決意を新たにした。

哲也さんは「拉致問題が解決しないまま父が他界したことに、私たちは憤りと無念を感じている。父が果たせなかつた遺志を受け継いで、墓前で『帰ってきたよ』と報告することが使命だと思つている」と語った。

滋さんの告別式は自宅のある川崎市内の教会で行われた。ひつぎの中に

哲也さんは「拉致問題が解決しないまま父が世界したことに、私たちは憤りと無念を感じている。父が果たせなかた遺忘を受け継いで、墓前で『帰ってきたよ』と報告することが使命だと思つている」と語った。

ぐみさんの「遺骨」が掲示されたが、その後のDNA鑑定で別人のものと判明した。死亡時期についても訂正されるなど詔明内容に不可解な点があるが、横田さん夫妻は不信感を募らせた。

横田さん夫妻は14年にめぐみさんの娘、キム・ウンギョンさんとモンゴルで面会し「若い頃のぬぐみに似ている」と喜びを語ったが、16年に北朝鮮は拉致被害者や行方不明者を含む全面的な再調査の中止を発表した。以降、具体的な進展はなく滋さんは18年に入院。10年以上待ち望んだ再会だが、存命中に実現はかなわなかつた。

写真に納まる横田滋さん、早紀江さん夫妻（2006年11月、東京都内）

かなわなかつた再会
めぐみさん 40年以上待ち続

ぐみさんの「遺骨」が掲示されたが、その後のDNA鑑定で別人のものと判明した。死亡時にいても訂正されるなど詰明内容に不可解な点があるり、横田さん夫妻は不信感を募らせた。